

専門基礎分野:「人体の構造と機能」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名		
解剖生理学 I	1	30	1	1	院内講師(医師) 教員 院外講師		
到達目標							
複雑な人間を人体と構造・機能の基本単位である細胞から理解できる。 血液造血管系のしくみと働きを理解できる。							
時	授業内容	方法	備考				
1	1. 素材からみた人体 1)細胞の構造と機能	講義	担当: 院内講師				
2	2)細胞を構成する物質とエネルギーの生成	講義					
3	3)細胞膜の構造と機能(漿膜・粘膜)	講義					
4	4)細胞の増殖と染色体	講義					
5	5)分化した細胞が作る組織	講義					
6	2. 形からみた人体 1)解剖学的正常位 2)方向、面と断面 3)人体の部位 4)人体内部の腔所	講義	担当: 院内講師				
7	3. 機能からみた人体 1)器官と器官系	講義	担当: 教員				
8	2)体液とホメオスタシス	講義					
9	4. 血液の組成と機能	講義				【事後学習】 ・血液の働きと成分についてまとめる。	
10	5. 造血・止血機能	講義					
11	6. 解剖見学に向けて 各臓器の大きさ・位置・構造について	グループワーク	担当: 院外講師 ・府立医科大学解剖室見学、 解剖見学にむけ、人体の構造・機能について学習する				
12	各臓器の大きさ・位置・構造(まとめ)	グループワーク					
13	解剖見学	解剖室見学	・「解剖見学を通しての学びと生命の尊厳について」発表 45分				
14							
15	解剖見学まとめ	グループワーク	45分				
16	終講試験		45分				
評価方法	筆記試験・レポート(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。						
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社						

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
解剖生理学Ⅱ	1	30	1	1	院内講師(医師)	
到達目標						
脳神経系の機能や骨格筋による運動のしくみ、刺激に応じた反応のしくみを理解できる。						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 神経系の構造と機能	講義	【事後学習】 ・脳の12神経のしくみと機能、交感神経、副交感神経についてまとめる。 45分 骨格模型を組み立てながら骨格を理解する。 45分			
2	2. 中枢神経系の構造と機能 大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄	講義				
3		講義				
4	3. 末梢神経系の支配域と機能 脊髄神経・脳神経・体性神経・自律神経	講義				
5	4. 神経伝達のメカニズム	講義				
6	5. 内臓神経系による内臓の調整	講義				
7	6. 随意運動と不随運動	講義				
8	脳神経系解剖生理学まとめ	グループワーク				
9	7. 骨格 1)人体の骨格・骨の形態と構造、骨の組織と組成、骨の発生と成長	講義				
10	2)脊柱・胸郭・上肢・下肢の骨格、頭蓋骨	講義				
11	3)人体の骨格	講義				
12	8. 骨格筋 1)骨格筋の構造 2)骨格筋の作用収縮 3)神経支配	講義				
13	4)背部・胸郭・腹部・頭頸部	講義				
14	5)上肢、下肢の筋収縮のしくみ 運動と筋肉	講義				
15	9. 運動 1)関節の構造 2)関節運動の種類	講義				
16	終講試験					
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社					

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
解剖生理学Ⅲ	1	30	1	1	院内講師(医師)
到達目標					
呼吸・循環系のしくみと働きを理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 呼吸器系 呼吸器(気道・肺)の構造		講義	【事後学習】 ・呼吸器系を構成する器官とその働きについてまとめる。 ・ガス交換のしくみを関連してまとめる。 45分 【事後学習】 ・循環器系のしくみと働きについてまとめる。 ・血圧の調整についてまとめる。	
2	2. 呼吸運動による肺胞換気・ガス交換		講義		
3	3. 呼吸回数・一回換気量		講義		
4	4. スパイロメータ・ガス交換		講義		
5	5. 換気血流比不均等		講義		
6	6. 呼吸の調節 呼吸運動と調整のメカニズム		講義		
7	7. 呼吸器の調節発表		グループワーク		
8	呼吸器系解剖生理のまとめ		個人ワーク		
9	8. 循環器系 循環器系の構成・心臓の構造と機能		講義		
10	9. 心臓の拍出機能		講義		
11	10. 末梢循環器系の構造 血管の構造・肺循環の血管・体循環の動脈 体循環の静脈		講義		
12	11. 血液の循環と調整		講義		
13	12. 血液の循環と調整・		講義		
14	13. リンパとリンパ管		講義		
15	循環器系解剖生理のまとめ 血圧測定の原理を解剖生理学の視点から考える		グループワーク		
16	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
解剖生理学Ⅳ	1	30	1	1	院内講師(医師)
到達目標					
消化器系のしくみと働き、腎・排尿路のしくみと働きを理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 消化・吸収・代謝系 1)消化器系の構成 (食物の摂取と咀嚼・嚥下) 2)消化とは・吸収とは	講義	【事後学習】 ・食物が口から入り肛門から排泄されるまでの一連の流れについて、各器官の消化・吸収の働きを消化酵素・消化時間と関連してまとめる。 45分 【事後学習】 ・尿が生成し排泄するまでの経路について各器官の働きを関連させてまとめる。		
2	2. 咽頭・胃・十二指腸の構造と機能	講義			
3	3. 空腸・回腸の構造と機能	講義			
4	4. 結腸・肛門の構造と機能	講義			
5	5. 肝臓と胆道・膵臓の構造と機能	講義 VTR			
6	6. 肝臓・腹膜の構造	講義 VTR			
7	7. 各消化酵素の働き	講義			
8	消化器系解剖生理のまとめ	個人 ワーク			
9	8. 腎泌尿器系 1)腎臓・糸球体・尿細管の構造と機能	講義			
10	2)糸球体装置の構造と機能	講義			
11	3)腎臓から分泌される生理活性物質	講義			
12	9. 排尿路(尿管・膀胱・尿道)の構造	講義			
13	10. 排尿路の神経支配	講義			
14	11. 体液の調節	グループ ワーク			
15	腎泌尿器系解剖生理のまとめ	グループ ワーク			
16	終講試験			45分	
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名		
解剖生理学V	1	30	1	1	院内講師(医師)		
到達目標							
性と生殖のしくみと働き、細胞の生命活動を支える防衛機構やホルモンのしくみと働きを理解できる。							
時	授業内容	方法	備考				
1	1. 男性生殖器・女性生殖器	講義	【事後学習】 ・人の成長と発達・老化を各器官の変化に視点をあてまとめる。				
2	2. 性周期・性機能に関連するホルモン	講義					
3	3. 受精と胎児の発生 1)生殖細胞と受精 2)初期発生と着床	講義					
4	3)胎児と胎盤・臍帯・妊娠中の母体の変化	講義					
5	4)分娩 胎児の血液循環	講義					
6	4. 人間の発生と成長発達について	グループワーク					
7	5. 内分泌による調整 内分泌とホルモン ホルモン分泌の調節	講義					
8	6. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 1)視床下部・下垂体系の構造・ホルモン	講義					
9	2)甲状腺腺・副甲状腺の構造とホルモン	講義				【事後学習】 ・ある作用に対して複数のホルモンが協力し機能しているのかまとめる。	
10	3)膵臓の構造と機能	講義					
11	4)副腎・心臓の構造と機能	講義					
12	5)性腺の構造と機能	講義					
13	7. 免疫系 非特異的防御機構・特異的防御機構	講義					
14	8. 生体防御の関連臓器	講義					
15	生殖器系・免疫系解剖生理まとめ	講義	45分				
16	終講試験		45分				
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。						
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社						

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
日常生活と解剖生理	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
人間の日常生活行動を解剖生理学(各器官のしくみや働き)とつなげて理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	日常生活行動を支える<息をする> ・呼吸器の構造 ・呼吸運動	講義・演習	【事前学習】 解剖生理学で学習した内容を復習して臨む。 基礎看護学の基本看護技術・生活援助技術で学習した生活行動について復習して臨む。		
2	・呼吸のメカニズム ・呼吸運動の調整 ・呼吸と酸塩基平衡	講義・演習			
3	日常生活行動を支える<流れる・運ぶ> 恒常維持のための物質の流通 ・末梢循環系 ・心臓の構造と機能 ・血液循環の調節	講義・演習	【事後学習】 講義終了後、解剖生理学と生活行動を関連させながら、学習した内容を復習し、ノートにまとめる。		
4	・体液量調整の機構 レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系	講義・演習			
5	日常生活行動を支える<動く> ・骨格筋の構造 ・骨格筋の動きを操る大脳からの指令 ・日常生活での基本的動き	講義・演習			
6	日常生活行動<感じる・考える> ・神経細胞とニューロン ・末梢神経と中枢神経	講義・演習			
7	・視覚のメカニズム ・聴覚のメカニズム ・嗅覚のメカニズム	講義・演習			
8	日常生活行動<食べる> ・食欲、食行動 ・見る、におう	個人ワーク			
9	・咀嚼、嚥下機能 ・消化と吸収 ・腹部消化管の構造と機能	講義・演習			
10	日常生活行動を支える<排泄する> ・便意、排便にかかわる神経支配	講義・演習			
11	・排尿、排尿路の構造(貯蔵と排尿) ・尿生成のメカニズム	講義・演習			
12	日常生活行動を支える<身体を守る> ・皮膚の働き	講義・演習			
13	日常生活行動を支える<話す・聞く> ・声を出す、聞く、言葉	講義・演習			
14	日常生活行動を支える<眠る> ・サーカディアンリズム ・ノンレム睡眠、レム睡眠	講義・演習			
15	まとめ	講義	45分		
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験・レポート(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名		
栄養学	1	30	1	2	酒井 正春 院内講師		
到達目標							
人間にとっての栄養の意義・各栄養素と栄養価、ライフサイクルにおける栄養所要量について理解できる。 健康回復に必要な栄養と食品・調理法について理解できる。							
時	授業内容	方法	備考				
1	1. 人間栄養学と看護 1) 栄養とは 2) 栄養素と人間の栄養状態 2. 栄養状態の評価・判定 1) 栄養アセスメントの意義	講義	担当: 酒井 正春 【事前・事後学習】 ・講義内容にそって、予習 をしておく。 ・講義終了後は復習を必ず する。				
2	2. 栄養状態の評価・判定 2) 栄養アセスメントの方法 3) 栄養状態の総合評価	講義					
3	3. 食事と食品 1) 食事摂取基準 2) 食品群とその分類 3) 食品に含まれる栄養素 4. 健康づくりと食生活 1) 生活習慣病の予防 2) 食生活の改善への施策	講義					
4	5. エネルギー代謝 6. 栄養素の種類とはたらき 1) 糖質	講義					
5	6. 栄養素の種類とはたらき 2) 脂質 3) タンパク質	講義					
6	6. 栄養素の種類とはたらき 4) ビタミン 5) ミネラル 6) 食物繊維 7) 水	講義					
7	7. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 1) 食物の消化 2) 栄養素の吸収 3) 吸収・代謝産物の排泄	講義					
8	8. ライフステージと栄養 1) 妊娠期 2) 授乳期 3) 乳児期 4) 幼児期 5) 学童期	講義					
9	8. ライフステージと栄養 6) 思春期・青年期 7) 成人期 8) 更年期 9) 高齢期	講義					
10	栄養学まとめ	個人 ワーク		45分			
11	9. 栄養指導とは 1) 治療食の種類	講義		担当: 院内講師			
12	10. 疾患別食事指導 1) 糖尿病 2) 肝炎・肝硬変	講義		・治療食の試食体験			
13	3) 高血圧・脂質異常症・肥満・痛風・虚血性心疾患	講義					
14	4) 慢性腎臓病 5) 摂食・嚥下障害	講義					
15	6) 潰瘍性大腸炎・クローン病 7) 胃切除術後	講義					
16	終講試験			45分			
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。						
テキスト	人体の構造と機能3 栄養学 別巻 栄養食事療法 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版		医学書院 医学書院 サイオ社				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
生化学	1	20	1	1.2	酒井 正春	
到達目標						
生体にある化学物資や分子の構成とどのように酵素、代謝反応が生体内で調整されているのかを分子レベルで理解することができる						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 生化学を学ぶための基礎知識 1)細胞の構造 2)生体を構成する分子 2. 代謝の基礎と酵素・補酵素 1)代謝・酵素反応・補酵素	講義	【事前・事後学習】 ・講義内容にそって、予習をしておく。 ・講義終了後は復習を必ずする。			
2	1. 糖質の構造と機能・糖質代謝 1)ブドウ糖 2)多糖類 3)消化 4)解糖 5)TCA回路、電子伝達系 6)グリコーゲン代謝 7)ペントースリン酸経路 8)糖新生	講義				
3		講義				
4	2. 脂質の構造と機能、代謝 1)脂肪酸 2)中性脂肪 3)リン脂質 4)コレステロール 5)脂質の消化と吸収 6) β 酸化 7)脂質の合成	講義				
5		講義				
6	3. タンパク質の構造と機能、アミノ酸の代謝 1)アミノ酸 2)二次構造 3)三次構造 4)蛋白質の消化 5)アミノ基転移反応 6)尿素回路	講義				
7		講義				
8	4. 遺伝子と核酸 1)遺伝学の基礎知識 2)核酸の構造と代謝	講義				
9	5. 遺伝子の複製・修復 1)DNA複製・修復 2)遺伝子多型	講義				
10	6. 遺伝子の発現 1)転写 2)翻訳・翻訳後の修飾	講義				45分
11	終講試験					45分
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能2 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版		生化学	医学書院 サイオ社		

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
病理学	1	15	1	1	院内講師(医師)
到達目標					
身体機能の低下や異常の病因、病変について理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 病理学の概念 2. 病的障害の原因と病理的变化 1)病因論(内的・外的)	講義	【事前学習】 ・血栓と梗塞・側副循環 浮腫・炎症の定義、徴候、 種類についてまとめる。 ・腫瘍の定義と分類についてまとめる。		
2	2)細胞の損傷と適応 3)物質沈着	講義			
3	4)循環障害 (1)循環系の概要 (2)浮腫 (3)充血とうっ血 (4)出血 (5)血栓症 (6)塞栓症 (7)虚血と梗塞 (8)側副循環による障害 (9)ショック (10)高血圧症 (11)DIC	講義			
4	5)炎症 (1)炎症と分類 (2)炎症の原因 (3)急性炎症と慢性炎症 (4)炎症細胞と炎症メディエーター (5)治療 (6)炎症の各型	講義			
5	6)組織の修復と創傷治癒 7)免疫と免疫不全 8)アレルギーと自己免疫疾患	講義			
6	9)代謝障害 10)老化と死 11)先天異常と遺伝子異常	講義			
7	12)腫瘍 (1)定義と分類 (2)発生病理 (3)悪性腫瘍の発生機序 (4)転移と進行度	講義			
8	終講試験				
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 病理学 医学書院				

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名		
病態学 I	1	30	1	2	院内講師(医師)		
到達目標							
脳神経系・運動器系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解できる。							
時	授業内容	方法	備考				
1	1. 脳神経系の機能障害 1)症状:意識障害 頭蓋内圧亢進症状・頭痛	講義	担当:院内講師 【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。 【事前学習】 ・意識レベルの見方、神経学的サインの見方についてまとめる。 【事後学習】 ・運動麻痺について運動神経伝達経路と合わせてまとめる。 ・頭蓋内圧亢進についてまとめる。				
2	1)症状:知覚障害・運動機能障害	講義					
3	2)検査:脳脊髄液検査・脳血管撮影 意識レベル・神経学的サインの見方	講義					
4	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)脳血管疾患	講義					
5	(2)脳腫瘍	講義					
6	(3)頭部外傷 (4)正常水頭症	講義					
7	脳神経系の機能障害のまとめ	個人ワーク					
8	2. 運動器系の機能障害 1)症状:関節運動の異常(関節拘縮)、跛行	講義		担当:仲川 春彦 【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。 【事前学習】 ・牽引とギブス保存療法をまとめる。			
9	2)症状:神経の障害(運動麻痺・感覚障害)	講義					
10	3)検査:関節可動域測定 骨密度の測定・関節鏡	講義					
11	4)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)骨折・脱臼 (2)骨髄炎	講義					
12	(3)変形性関節症 (4)骨腫瘍	講義					
13	(5)腰椎椎間板ヘルニア (6)慢性関節リウマチ	講義					
14	5)その他:ギブス保存療法、手術療法	講義					
15	運動器系の機能障害のまとめ	講義			45分		
16	終講試験				45分		
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。						
テキスト	専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器 医学書院 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 病態生理学 医学書院						

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
病態学Ⅱ	1	30	1	2	院内講師(医師)
到達目標					
呼吸器系・循環器系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 呼吸器系の機能障害 1)症状:呼吸困難	講義	【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。 【事後学習】 ・換気障害についてまとめる。 ・肺がんについて、進行度(病期)、組織型、治療法を関連付けてまとめる。		
2	1)症状:咳嗽、喀痰・咯血	講義			
3	2)検査:肺機能検査・気管支鏡	講義			
4	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)肺炎 (2)肺結核	講義			
5	(3)慢性閉塞性肺疾患 (4)気管支喘息	講義			
6	(5)肺腫瘍 (6)呼吸不全 (7)胸膜の疾患	講義			
7	4)胸部外科(肺切除術)	講義			
8	呼吸器系の機能障害のまとめ	個人ワーク			
9	2. 循環器系の機能障害 1)症状:胸痛・動悸・呼吸困難	講義	【事前学習】 ・心電図の原理についてまとめる。 【事後学習】 ・心筋梗塞と狭心症、致死的不整脈の心電図変化の特徴、症状の特徴をまとめる。		
10	1)症状:浮腫・チアノーゼ・失神・四肢の疼痛・ショック	講義			
11	2)検査:心電図・心エコー 心臓カテーテル法(冠状動脈造影法)	講義			
12	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞) (2)心不全	講義			
13	(3)不整脈 (4)弁膜症 (5)心膜炎・心筋症	講義			
14	(6)大動脈解離 (7)動脈の閉塞性疾患	講義			
15	(8)静脈系疾患(静脈血栓症・静脈瘤・肺塞栓症) (9)高血圧・起立性低血圧	講義			
16	終講試験				
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ 専門基礎分野	成人看護学2 呼吸器 成人看護学3 循環器 疾病の成り立ちと回復の促進	医学書院 医学書院 医学書院		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
病態学Ⅲ	1	30	1	2	院内講師(医師)
到達目標					
消化器系・腎泌尿器系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 消化器系の機能障害 1)症状:腹痛・嘔吐・吐血・下血		講義	【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。	
2	1)症状:黄疸・腹水・肝性昏睡 門脈圧亢進症状		講義		
3	2)検査:内視鏡検査・超音波検査 肝生検・肝機能検査		講義	【事後学習】 ・食道癌、胃癌、大腸癌の特徴についてまとめる。 ・イレウスの種類についてまとめる。 ・肝障害に伴う症状についてまとめる。	
4	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)食道癌 (2)胃癌 (3)潰瘍性大腸炎 クロウン病 (4)腸閉塞 (5)結腸癌・直腸癌		講義		
5	(6)肝疾患 (7)総胆管結石 (8)膵疾患		講義		
6	4)外科的治療 (1)食道外科 (2)胃・十二指腸の外科		講義		
7	(3)肝・胆・膵の外科 (4)大腸・小腸・肛門部の外科		講義	【事前学習】 ・胃全摘・亜全摘術について術式の違いについてまとめる。	
8	2. 腎臓の機能障害 1)症状:浮腫・電解質異常・尿毒症		講義		
9	2)検査:腎機能検査		講義	【事後学習】 ・腎不全の重症度と治療を関連させてまとめる。 ・副腎皮質ステロイド薬や免疫抑制薬使用中の患者に対する注意点を、副作用と関連させながらまとめる。 ・透析について特徴をまとめる。	
10	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)腎の悪性腫瘍 (2)腎不全 4)その他:透析・腎移植		講義		
11	3. 泌尿器系の機能障害 1)症状:排尿障害 2)検査:膀胱造影・尿道造影・膀胱鏡		講義		
12	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)泌尿器の悪性腫瘍		講義		
13	(2)尿器・性器の感染 腎盂腎炎・膀胱炎等		講義	45分	
14	(3)尿路通過障害 尿路結石・前立腺肥大症		講義		
15	腎泌尿器系の機能障害のまとめ		講義		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門分野Ⅱ 成人看護学 5 消化器 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 病態生理学 医学書院			

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
病態学Ⅳ	1	30	1	2	院内講師(医師)	
到達目標						
感覚器系・血液造血器系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解できる。						
時	授業内容		方法	備考		
1	1. 皮膚 1)皮膚の構造、生理 2)症状: 掻痒感 3)検査: パッチテスト・皮内反応		講義	【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。 【事後学習】 ・アトピー性皮膚炎について原因・病型・症状・治療についてまとめる。 【事後学習】 ・眼底鏡の使用方法・代表的な異常所見についてまとめる。		
2	4)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)湿疹・皮膚炎 (2)帯状疱疹 (3)熱傷		講義			
3	(4)褥瘡 (5)疥癬 (6)蜂窩織炎 (7)光線療法・副腎皮質ホルモン		講義			
4	2. 眼 1)眼の構造と機能 2)症状: 視力障害・視野異常・充血 3)検査: 視力検査・眼底検査・眼圧検査		講義			
5	4)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)白内障		講義			
6	(2)緑内障 (3)網膜症・網膜剥離		講義			
7	3. 耳鼻咽喉 1)耳鼻咽喉の構造と機能 2)症状: 難聴・眩暈・嗅覚障害・鼻漏		講義			
8	3)検査: 聴力検査・耳管通気検査・嗅覚検査 4)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)外耳炎・内耳炎 (2)メニエール病 (3)慢性副鼻腔炎		講義			
9	(4)咽頭・喉頭癌 (5)手術療法		講義			
10	感覚器系の機能障害のまとめ		個人ワーク			45分
11	4. 血液造血器系の機能障害 1)症状: 貧血・白血球減少症・脾腫・出血性素因		講義			【事前学習】 ・貧血の種類とその原因についてまとめる。 【事後学習】 ・白血病の症状について、血液の成分と機能、造血のしくみをふまえてまとめる。
12	2)検査・治療: 骨髄穿刺・化学療法		講義			
13	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)貧血 (2)白血病		講義			
14	(3)悪性リンパ腫 (4)多発性骨髄腫		講義			
15	(5)出血傾向のある疾患 紫斑病 播種性血管内凝固症候群(DIC)、 血友病		講義			
16	終講試験					45分
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト		専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚	医学書院			
		専門分野Ⅱ 成人看護学13 眼	医学書院			
		専門分野Ⅱ 成人看護学14 耳鼻咽喉	医学書院			
		専門分野Ⅱ 成人看護学 4 血液、造血器	医学書院			
		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学	医学書院		

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
病態学 V	1	30	2	1	院内講師(医師)	
到達目標						
生殖器系・内分泌系・免疫系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解できる。						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 生殖器系の機能障害 1)症状:外陰部搔痒感・自律神経症状 2)検査:内診・頸管粘膜検査・画像検査	講義	【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。 【事後学習】 ・子宮筋腫・子宮癌の特徴と症状・診断・治療・検査についてまとめる。			
2	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)外陰部・膣部の炎症 (2)子宮の疾患(子宮内膜症・子宮筋腫・子宮癌)	講義				
3	(3)卵巣の疾患(卵巣機能不全・卵巣癌) (4)月経異常	講義				
4	(5)更年期障害 (6)不妊症 (7)性感染症	講義				
5	生殖器系の機能障害のまとめ	個人ワーク		45分		
6	2. 内分泌系の機能障害 1)症状:高血糖・低血糖 2)検査:内分泌疾患の検査	講義	【事後学習】 ・糖尿病のメカニズム・症状・治療・慢性合併症についてまとめる。 ・BMIを使って自分の標準体重と肥満度を求める。			
7	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)下垂体系疾患 (2)甲状腺疾患	講義				
8	(3)副腎疾患 (4)糖尿病	講義				
9	(5)脂質異常症・肥満症 メタボリックシンドローム・尿酸代謝異常	講義				
10	内分泌系の機能障害のまとめ	個人ワーク		45分		
11	3. 自己免疫疾患とその機序 1)症状:関節痛・レイノー現象 皮膚・粘膜症状・発熱	講義				
12	2)検査・治療:血清・免疫学的検査 薬物療法・膠原病治療	講義				
13	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)全身性エリテマトーデス	講義		【事後学習】 全身性エリテマトーデスの症状についてまとめる。		
14	(2)関節リウマチ (3)シューグレン症候群	講義				
15	(4)敗血症 (5)ヒト免疫不全ウイルス感染症	講義				
16	終講試験		45分			
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	専門分野Ⅱ 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 病態生理学 医学書院					

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
微生物学	1	15	1	1	院内講師(医師)
到達目標					
微生物及び健康を阻害する原因となる病原微生物についての知識及び人体への影響について理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 微生物とは		講義	【事後学習】 ・感染の種類と経路についてまとめる。 45分	
2	2. 感染とその防御 1)感染の成立とその経路		講義		
3	2)感染に関する生体防御機構		講義		
4	3)感染源・感染経路からみた感染症 感染予防		講義		
5	3. 感染症の検査・診断・治療		講義		
6	4. おもな病原微生物 1)細菌		講義		
7	2)真菌・原虫・ウイルス		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進4 微生物学 医学書院			

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
薬理学	1	30	1	2	院内講師(薬剤師)	
到達目標						
身体の機能の低下や異常の回復を促進する治療の原理について理解することができる						
時	授業内容		方法	備考		
1	1. 薬理学を学ぶにあたって		講義	【事後学習】 ・各章のゼミナールを学習をする。 ・ステロイド療法についてまとめる。		
2	2. 薬理学の基礎的知識		講義			
3	3. 看護業務に必要な薬の知識 4. 輸血製剤・輸血剤		講義			
4	5. 抗感染症薬		講義			45分
5						6. 消毒薬
6	7. 抗がん薬		講義			
7	8. 免疫治療薬 9. 漢方薬		講義			
8	10. 抗アレルギー薬・抗炎症薬		講義			
9	11. 末梢での神経活動に作用する薬物		講義			
10	12. 中枢神経系に作用する薬物		講義			
11	13. 循環器系に作用する薬物		講義			45分
12			講義			
13	14. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物		講義			
14	15. 物質代謝に作用する薬物		講義			
15	16. 皮膚科用薬・眼科用薬 17. 救急の際に使用される薬物		講義			
16	終講試験					45分
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進3 薬理学 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
総合医療論	1	15	2	1	院内講師(医師)	
到達目標						
時代と共に変化してきた医療の歴史を振り返り、現代の保健医療福祉が抱える問題やその問題の背景について考え、看護専門職として社会に貢献する方向性や視点について理解できる。						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 医学と医療 1) 医学と医療 2) 医療のあゆみと医療観の変遷	講義				
2	2. 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 1) 少子高齢化と地域社会の変容 2) 疾病構造の変化 3) 地域医療連携 4) チーム医療	講義				
3	3. 医療と社会 1) 患者の権利 2) ポリファーマシー	講義				
4	3) 最先端医療 4) AI 5) ICT	講義				
5	4. わが国の医療政策と医療供給体制 5. 医療の質評価と医療情報の開示	講義				
6	6. 保健・医療・福祉の潮流 1) 21世紀の医療変革 2) プライマリケアと総合診療	講義				
7	3) 地域包括ケアシステムの新しい展開 4) 保健・医療の国際化	講義				
8	終講試験			45分		
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	健康支援と社会保障制度1 医療概論 医学書院 別巻 総合医療論 医学書院					

専門基礎分野:「健康支援と社会保障制度」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
公衆衛生学	1	30	2	1.2	小野 伸一郎
到達目標					
地域社会での公衆衛生活動について理解することができる 公衆衛生と健康問題の関連性に気づき、各種調査から健康増進、疾病の予防など看護の役割について理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 公衆衛生の概要 1)公衆衛生行政 2)公衆衛生の領域、活動の特徴	講義	・社会福祉、各看護学と関連づける。 ・国民衛生の動向を活用しながら、統計の見方を学習する。 【事後学習】 ・感染症の対象疾患と患者等の届出について・感染症類型と医療体制についてまとめる。 ・地域における保健活動を担う、市町村保健センターと保健所の役割、業務の違い、法的根拠を学習する。		
2	3)プライマリヘルスケア 4)ヘルスプロモーションの展開 5)WHO加盟国の役割	講義			
3	2. 健康に関連した指標 1)国勢調査 2)人口動態 3)人口動態 4)出生 5)死亡・死因 6)死産・周産期死亡・乳児死亡 7)平均寿命	講義			
4	3. 生活環境と健康 1)健康の成立要因 2)健康に影響する環境 (1)生態学的環境 (2)物理化学的環境 (3)社会的環境 3)身体的・精神的・社会的影響 4)地球環境問題	講義			
5		講義			
6	4. 生活環境の保全 1)環境基本法 2)典型7公害(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭) 2)ゴミ、廃棄物 一般廃棄と産業廃棄物	講義			
7	5. 労働衛生 1)食品管理 2)職場の労働管理 (1)労働安全衛生法 (2)健康管理・職業病の予防 (3)トータルヘルスプロモーション	講義			
8	6. 感染症とその予防対策 ・結核予防法、DOTS・HIV感染症の対策	講義			
9	7. 地域保健活動:成人保健 1)健康日本21 2)健康増進法 3)健康診断・検診、がん対策、生活習慣病対策	講義			
10	8. 地域保健活動:母子保健と歯の健康	講義			
11	9. 地域保健活動:高齢者保健 1)地域包括ケアシステム 2)高齢者保健の課題 3)高齢者の転倒防止と認知症予防の運動(実技)	講義			
12	10. 地域保健活動:精神保健 1)活動理念 2)地域活動を支えるしくみ 3)自殺予防対策	講義			
13	11. 地域保健活動:難病・障害保健 1)関連する法律 2)地域支援システム	講義			
14	12. 保健危機管理・災害保健	講義			
15	まとめ	講義			
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生学 医学書院 国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
社会福祉Ⅰ	1	30	2	1	澤野 純一 桑原 位修
到達目標					
医療保障・介護保障・高齢者福祉について学び、社会福祉と医療、社会保障制度の連携について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 社会保障制度と社会福祉 1)社会福祉の概念と定義 2)社会福祉の機能・体系		講義	【事後学習】 ・障害福祉に対する法律と適応年齢についてまとめる 身体障害者福祉(身体障害者の定義・手帳の申請・交付・福祉の種類)についてまとめる。 ・介護保険制度に関しては、介護保険制度の変遷、被保険者、要介護認定過程、保険給付内容と利用限度額、ケアマネジメントのプロセスについて学習する。 ・成年後見人制度に関しては、概要(利用目的、対象者、種類、類型、利用プロセス)について学習する。 ・各福祉の手続きについてまとめる。	
2			講義		
3	2. 社会福祉の法制度 1)社会福祉の歴史的展開 2)社会保障・社会福祉の動向		講義		
4			講義		
5	3)社会福祉サービスの内容とサービス提供の仕組み 4)社会福祉法と福祉6法 (1)生活保護法 (2)児童福祉法 (3)身体障害者福祉法 (4)知的障害者福祉法 (5)老人福祉法 (6)母子及び寡婦福祉法		講義		
6			講義		
7	3. 公的扶助 1)貧困・低所得問題と公的扶助制度 2)生活保護法制度と施策		講義		
8			講義		
9	4. 介護保障 1)介護保障の歴史 2)介護保険制度の概要 保険者・被保険者・要介護・要支援の認定 ケア・マネジメント 3)保険給付 4)介護保険制度の課題		講義		
10			講義		
11	5. 高齢者福祉の施策 1)高齢者医療制度 2)高齢者福祉の施策 (1)在宅福祉事業 (2)施設福祉 (3)認知症高齢者対策		講義		
12			講義		
13	6. 児童福祉法と福祉施設 1)児童福祉施設の歴史 2)児童福祉法 3)母子保健法 4)児童虐待対策 5)DV対策 7. 児童福祉の課題		講義		
14			講義		
15	終講試験				
16	振り返り			45分	
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
社会福祉Ⅱ	1	15	2	2	院内講師 教員
到達目標					
国民のニーズに答えるための方法やサービスの活用の実際を理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 社会保障実践と医療・看護 1)社会福祉援助とは 2)社会福祉援助技術 (1)ケースワーク (2)グループワーク		講義		
2	2)社会福祉援助技術 (3)間接援助技術 (4)関連援助技術		講義		
3	3)社会福祉援助の検討課題 4)連携の重要性 5)社会福祉実践と医療・看護の連携		講義		
4	2. 医療・看護・福祉の連携の実際 1)医療ソーシャルワーカーとは 2)連携の場面とその方法		講義		
5	3)社会福祉施設の実際 (1)施設の種類と特徴 (2)設置目的、関連制度 (3)職種と利用者 (4)活動内容 (5)医療・看護との連携		講義		
6	4. 障害者福祉 1)障害者福祉の理念 ノーマライゼーション 2)障害者総合支援法 3)障害者福祉の関連施策		講義		
7	社会福祉まとめ		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験・提出物(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉 医学書院			

専門基礎分野:「健康支援と社会保障制度」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名		
関係法規	2	30	3	1・2	院内講師 教育主事		
到達目標							
看護職に必要な法律と国民の健康や生活を守るための法律について理解できる。							
時	授業内容	方法	備考				
1	1. 法の概念	講義	担当: 院内講師 【事前学習】 ・保健医療従事者の業務と法的責任について学習する				
2	2. 医事法 1) 医療法	講義					
3	2) 医療関係資格法 3) 保健医療福祉資格法 4) 医療を支える法	講義					
4	3. 保健衛生法 1) 共通保健法 2) 感染症に関する法	講義					
5	2) 感染症に関する法	講義					
6	4. 労働法と社会基盤整備 1) 労働法 2) 環境法 3) 社会保険法 4) 福祉法	講義					
7	5. 法律のまとめ	講義					
8	6. 薬務法 1) 薬事一般に関する法律 2) 薬剤師法 3) 毒物及び劇物取締法 4) 麻薬及び向精神薬取締法	講義		担当: 院内講師			
9	5) あへん法 6) 大麻取締法 7) 覚せい剤取締法 8) 薬剤管理の実際(見学)	講義 演習					
10	7. 保健師・助産師・看護師法 1) 総則(目的・定義) 2) 免許 3) 試験 4) 業務 5) 雑則 6) 附則 保健師・助産師・看護師法の沿革	講義		担当: 教育主事			
11	8. 保健師・助産師・看護師法の附属法令(政令・省令)	講義					
12	9. 看護師等養成所の運営に関するガイドライン	講義					
13	10. 看護師の業務範囲と責任 11. 個人情報の保護に関する法律・ガイドライン	講義					
14	12. 看護師等人材確保の促進に関する法律 13. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律	講義					
15	14. 医療関係法規 1) 社会福祉法及び介護福祉法 2) 法による看護と介護の違い	講義			45分		
16	終講試験				45分		
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。						
テキスト	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令 医学書院 看護六法 新日本法規						